

平成二四年三月十六日（金）

衆議院財務金融委員会

速記録（議事速報）

○海江田委員長 次に、豊田潤多郎君。

○豊田委員 新党きづなの豊田潤多郎でございます。

私の持ち時間は十分ということで、大臣が九時からまた参議院の予算委員会に回られますので、時間内に、あるいは余裕を持って終了いたしますので、御安心ください。

それで、私どものきづなの判断といたしまして、関税率法等の一部を改正する法律案につきまして、国民生活及び経済活動に大変大きく大きく影響する法案でありますし、また、三月三十一日の日切れ法案ということでもございます。私どもは、その内容を精査いたしましたので、政府案で問題がないという判断をいたしましたので、この法案に賛成をいたします。したがって、特に大臣にこの法案に関しての質疑ということはありません。どうぞ御安心ください。

残りもう七、八分しかありませんので、実は、大臣に、直接の所管ということではございませんし、直接どうこうしていただくということではないんですが、思いや感想がございましたら、ちょっとお聞かせ願いたいということが一つあります。それは、現在非常に問題になっております A I J、投資顧問業者の、特に、年金を受託といいますか、年金の運用に関して大変な、新聞報道等によれば二千億ぐらいの運用資産の毀損を生じているんじゃないかという、この点につきまして、今、金融庁なりが、あるいは証券取引等監視委員会ですとか、そこがきちつと再検査をしているとは思いますが、そこがまず一言、大臣から、この件に関するの思いがございましたら、お話しください。

○安住国務大臣 おはようございます。本朝からの御審議に改めて感謝を申し上げます。今御質問のあった件でございますけれども、お預かりをしている年金がどれだけそれぞれの人々にとって重要なものであるのかということに対して思いをいたさないで、報道を今見えていますと、いわば粉飾的手法を使ってでも、とにかくそういうお金を集めて投資運用をしていたとすれば、これは大変ゆゆしき問題であるというふうに思っておりますので、関係当局で徹底的に調べていただければと思っております。

○豊田委員 大臣がそのようなお考えを持ってもらえることは大変評価したいと私は思いますし、おとついで、この財務金融委員会でも参考人招致ということで見解を皆さんからお聞きしたんですが、肝心の A I J の浅川社長は、検査に忙殺されてい

て、出頭と聞いていますか参考人として出席できないという返事がありました。

確かに、検査も検査でございますが、やはり国会で参考人として出頭、出席を求めるということをお願いしているわけですから、一時間、二時間、真実をきちつとお話ししていただくということはできたんじゃないかと私は思っております。他の委員からも今要請もありませんが、さらに国会としてはより一段進んだ形での対応も考えるべきではないか、このように思っておりますし、私もそうすべきだと思っております。

ただ、恐らく、予断を持ってはいけません。が、刑事事件に発展するおそれも、可能性は十分あると思っておりますので、余りタイミングをずらしておきますと、警察の方で勾留されたりというようなことになる可能性もあります。

国会としての適正な判断、これはまた委員長初め理事会等で御検討いただきたいと思います。国会としても、単に事実を追及するとか、国会は警察とかあるいは警察じゃありませんので、むしろ、予防策というか、今後こういうことが二度と起きないようにするという立法措置あるいは行政に対するいろいろな要望、要請、そういう形の対応ができないかという観点からの検討をやはり国会はすべきである、こう思っておりますので、私も何か建設的な提案ができればということで頑張っていきたいと思っております。

それに関連して、ちよつとこれは、将来、直接、間接にも財務大臣のお仕事に影響してくるんじゃないかと思われませんが、厚生年金基金の行ってお

ります厚生年金の代行部分、これが、A I J のことかどうかという話は別にしまして、一般的に、どうも投資顧問関係等のアドバイザーを受けたところがかなりその代行部分の資産を毀損しているのではないかということが報道等で言われておりまして、数日前もテレビの特集番組で、その代行部分を返済しようとするために企業が連鎖倒産を起こしている。

要するに、代行部分を企業のグループで抱えているんですが、どこか一つがそれをもう返せない行き詰まるとなると、それは、ほかのところがまたシェアして、全体で厚生年金に返さなきゃならない、こういうことから、どんどん芋づる式に、一つが倒れると、A 社から B 社、B 社から C 社というふうに、これは兵庫県のタクシー会社の例を報道でやっておりましたけれども、そういうことが出てきますと、これは社会不安というか、経済不安になっていく可能性も十分あります。

ということ、絶対にそういうことが起こらないようにきちっとした対応をとっていききたいという決意を持っておられると思いますけれども、ぜひ、代行部分の毀損している状況等について、今後どういうふうに大臣として対応されるお考えか、これを最後にお聞きして終わりたいと思います。

○安住国務大臣 今御指摘のことは私もニュースで、タクシー会社だったですか、見ました。

ですから、やはり安定運用を国民は求めているんだと思います。それと同時に、透明性の確保をしっかりとやってもらわないと、預けたお金に対する責任というのは出てきますので、そうしたこと

を含めて、今、金融庁と厚労省が中心となって、今後どういうやり方がいいのかということ、協議をしてもらうというふうになっておると思います。それから、民主党内でも今ワーキングチームを立ち上げているようですから、そこでの議論というのは見守りたいと思います。

厚生年金基金の運用というのは、やはり国民の皆さんにとっては、老後というのは、何か新しく就職するとかない以上、本当に生活の糧ですから、そういう意味では、これを大事に扱って運用していただくという理念に立ち返ってやっていただきたいと思っております。

○豊田委員 一分前になりましたので、これでもう質問はいたしません、我々、国会としても、議員としても、政府と一致協力して、この問題は国民の皆さんの将来にかかわる本当に大きな問題でありますから、これからきちっと、そういうことが起きないように、予防策を含め、立法措置も含め、検討していきたいと思っておりますので、政府におかれましてはよろしくお願いいたします。

以上です。